

東川町民賞の月間MIP賞

東川町民賞の月間MIP賞。4月分にダルビッシュ有選手、5月分に森本稀哲選手が選ばれました。7月10日、札幌ドーム球場で合田博副町長・庄内孝治後援会長が両選手に賞を贈呈し、副賞として19年度ひがしかわ産米・ほしのゆめ1年分、天人峽温泉または旭岳温泉ペア宿泊券をそれぞれ贈りました。



戦期間中、その月もつとも印象深い活躍をしたファイターズの選手に、東川町民賞を贈って活躍をたたえようというものです。

ダルビッシュ選手は、4月中3勝を上げ、チームの若きエースとして成長して印象度が高かったのが授賞理由です。森本選手は、5月中22試合すべてに出場し、打率3割6分を誇って、その後のセ・パ交流戦優勝の原動力となったことが授賞理由です。次回7、8月賞は、8月21日の贈呈を予定しています。

1カ月前の七夕飾り

7月6日、地域子ども教室の児童たちが、1カ月早い七夕飾りをしました。

元教員の林房司さん（北町）が指導を担当しました。



暦から新暦に変わるときに旧暦の7月7日をそのまま新暦の8月に移行したところと、新暦になっても7月のまま残したところがあります。道内は函館、根室地方を除いて主に8月ですが、全国的には7月が一般的です。

七夕飾りは、8日間で農村環境改善センターホールに展示しました。

地域子ども教室は、夏休み期間を除いて、来年度2月まで毎週火、金曜日に農村環境改善センターで午後3時30分～午後5時まで開いています。初回だけ500円が必要ですが、随時入会できます。

玉川カルテットの演奏

7月12日、高齢者学級と老人クラブ連合会が主催して、農村環境改善センターで、テレビでおなじみの「玉川カルテット」、東川町ゆかりのタレント森崎尚也さん所属の「ビックシティ」（吉本興業）、ジャズシンガーE

IKOさんの公演を行いました。「笑うかどに健康きたる」と銘打つての公演に、お年寄りら約250人が訪れました。EIKOさんのすばらしい歌、息の合ったビックシティの熱演、玉川カルテットの三味線やギター



玉川カルテットの出演

国際教育推進協議会

東川第三小が中核校となつてスタートする文部科学省選定の国際教育推進プログラムを具体的にどう進めるのか、という検討が始まりました。町教委は7月11日、農村環境改善センターで「東川国際教育推進協議会」の第1回協議会を開きました。今秋にも国内先進地域の視察も行います。

幼児センターをはじめ、町内の各小、中、高校の学校長、北大、旭川医大、道教育大旭川校や町内の団体・会社役員など、委員17人が一堂に出席しました。三宅良昌教育長は、冒頭「町内の学校、地域、NPOがもつと連携して、幼、小、中、高一環の国際交流プランをどう実現できるか。東川町の総合的な国際教育プログラムを開発することが必要」と今後の協議の進展に期待を込めました。協議会は、来年3月までには同協議会で具体的な教育取り組みプランを固めます。各校では来年度からそれぞれ国際化教育がスタートします。

法務大臣のメッセージ



石上支部長から法務大臣メッセージを受けました

社会を明るくする運動強調月に呼応して、7月2日旭川地区保護司会東川支部（石上郁支部長）が役場を訪れ、長勢甚遠法務大臣からの運動協力メッセージを松岡市郎町長に伝達しました。

石上支部長は「町内では幸い大きな事件は起きていないが、油断はできない」と運動の必要性を強調しました。

松岡市郎町長は「交通安全運動、花いっぱい運動などと併せて、なんと言っても町ぐるみの運動が必要。家庭から、地域から、住民の皆さんと一緒に運動を進めます」と気持ちを新たにしました。

花本建設のチャリティ

6月29日、コート旭川CCで開かれたコート旭川シニアオープンプロアマチャリティーゴルフ大会（大会長・若狭高司わかさりゾート代表取締役社長）で、同大会実行委員会（三嶋雄吉実行委員長）から町に多額の寄付金をいただきました。

当日開いたチャリティーオークション大会などの益金です。大会終了後に山森敏晴特別対策室長が三島実行委員長からいただきました。



三嶋実行委員長から寄付をいただきました

町民の町事業の寄付

花本建設（旭川、花本勝太郎社長）から写真の町事業に多額の寄付金をいただきました。7月4日、花本社長が役場を訪れ、松岡市郎町長が寄付を受けました。

町では篤（とく）志を写真の町文化基金に充当しました。同社からの寄付は4年連続です。同社からは寄付金のほか、フットフェスタ期間中に社員2人



をボランティアスタッフとして、さらにワゴン車1台を無償提供していただきました。